INTERVIEW 談論風発

亀本 茂
KAMEMOTO Shigeru

カネカ
特別顧問

「関西スピリッツ」の発揮

～ものづくりがけん引する元気な関西へ～

日本経済全体の回復基調や外国人観光客によるインバウンド効果もあり、関西経済も少し元気になってきているように思います。長きにわたる景気の低迷から抜け出しつつあることは、とても嬉しいことですが、私には素直に喜べない点があります。

1つ目は、現在のインバウンドによる効果がいつまで続くのかということです。関西には、日本の歴史的な建築物や文化財が多数存在し、観光地として注目を浴びていますが、過去の財産だけではいつまでも人を呼べないでしょう。今のうちに将来を見据えた新たな一手を考えておく必要があります。幸い関経連では、2025年の国際博覧会や、IR（統合型リゾート）、スポーツ振興など、関西一体となった新しいプロジェクトを推進されており、先般策定された第3期中期計画では、こうしたプロジェクトを一過性のものではなく持続的なものにするための取り組みが盛り込まれています。これらの取り組みが新しい文化の創造につながり、人を呼べる次世代の財産となるよう関経連の活動に大いに期待しています。

2つ目は、ものづくり産業の勢いが弱いことです。私はものづくりが経済をリードする姿が最も望ましいと考えています。そう考える理由は、新入社員時代の工場研修にさかのぼります。現場の知恵から生み出されたさまざまな仕掛けや工夫に感銘を受け、日本のものづくりの強さと大切さを身をもって感じました。

かつて、重化学工業、家電産業が盛んであったとき、関西は日本のものづくりをけん引する存在でした。しかし、産業構造の転換への対応が遅れ、関西全体としてはものづくりの力が急速に弱くなったように感じます。また企業は、日本での製造設備の投資を大きく減らし、成長が見込める海外での投資を行うことが主流になっています。当社においても、国内では維持更新投資が中心で、新規の設備投資はほとんど海外です。例えばマレーシア工場は、日本で一番大きな高砂工業所の生産量を追い抜く勢いです。個々の企業の経営判断としてはやむを得ないことですが、関西全体としてどうすれば工場を誘致でき、関西が再びものづくりをリードする存在になり得るかを真剣に考えなければなりません。

また行政には、企業活動を支えるような道路や港湾などのインフラ整備など、企業単独ではできないような取り組みをお願いしたいと思います。行政のサポートと企業の事業活動がそれぞれうまく機能すれば、関西のものづくりの復活にもつながるでしょう。

関西には、“やってみなはれ”に象徴される、新しいことに次々と挑戦し、文化や産業を創造する「関西スピリッツ」があります。お笑いを例とすると、日本中を笑いで席巻している吉本興業の取り組みがあげられます。「笑い」を約100年かけて磨き続けた結果、お笑いは関西だと言われるまでになりました。さらに今、言葉の壁を超え「笑い」を世界に広げる挑戦をしていると聞きます。こういった取り組みこそまさに「関西スピリッツ」といえるのではないでしょうか。残念ながら、最近は関西全体でこの精神が薄れてきているように感じます。変化が激しい今こそ、文化やものづくりの分野でチャレンジを奨励する雰囲気をつくり、「関西スピリッツ」を発揮するべきだと思います。

当社は、化学を中心に食品から医薬・医療器、太陽電池から住宅まで幅広い領域で事業を展開し、世界で存在感のある企業をめざしています。われわれメーカーの使命は、ものづくりを通じたソリューションをいかに提供するかに尽きると思っています。新しいことにチャレンジする「関西スピリッツ」を大切にして、ものづくりに励み、日本・関西経済の発展に貢献していきたいと考えています。（談）